コミュニティニュース・マガジン　2011年6月【第12号】

みんなのわ

■発行:CLC
特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター
仙台市青葉区木町16-30 TEL:022-727-8730
■編集:「みんなのわ」編集委員会
■発行日:平成23年5月25日　部数:4,000部
■配布地域:国見・八幡小学校区、木町周辺

3.11 東日本大震災

いまこそ、地域でつながろう！

震災により、「みんなのわ」4・5月号を休刊しましたことをお詫びします。

東日本大震災で亡くなられた方に謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

CLC が運営する「国見・千代田のより処ひなたぼっこ」のある青葉区千代田町でも、多くの方が避難所生活を送りました。水道や電気の復旧により避難所が次々と閉鎖されるなかで、十分に住める状態ではない自宅での生活を強いられ、また、住む場所を失った在宅介護者や子育て世帯などの姿がありました。

千代田町町内会では、早くから炊き出しが行われました。男性は木を折ってたき火の番をし、女性は集会所で調理を担当されていました。片付けまで含めて日の明るいうちに終了できるように、と町内会長が地域を巡り避難所の支援もしながら、炊き出しも指示されていました（朝は 6 時集合、夕方は 15 時集合・17 時解散）。また、配食の必要な家を調査し、地域の方が炊き出したものを配って歩いていました。地域を知る町内会だからこその底力、そして人と人のつながりの重要性をあらためて感じました。

また、東日本大震災によって、福祉避難所に関する相談窓口が定められていないことにも気づきました。どこに相談すればよいのかを、地域包括支援センターや福祉施設の職員でさえ知りませんでした。被災時に、どんな支援が必要で、どうすれば支援が受けられるのかを、早急にまとめる必要があると感じます。

「ひなたぼっこ」で職員＆ボランティアを募集中！

★ひなたぼっこ運営のための介護・看護職員（常勤 2 人）
★被災地で活動するボランティアの受け入れ担当の職員（非常勤 2 人）
★配食など地域活動を行うボランティア
　⇒「ひなたぼっこ」の詳しい活動は 2 頁をご覧ください。

集いの場＆支え合いの拠点
「ひなたぼっこ」だより

http://www.clc-japan.com/hinatabokko/

「ひなたぼっこ」では、被災翌日から、国見地区民生委員児童委員協議会や葉山・国見地域包括支援センターなどの協力を得て、住まう場所を失った方の一時避難としての宿泊の提供や、朝昼夜の配食、お米やおむつ、絵本の宅配、買い物代行、安否確認や話し相手、被災した家の片づけなどに取り組んでいます。

これまでに緊急宿泊を利用された方は6人で、自宅に戻られた後も、配食や入浴支援など継続的に支援しています。4月18日までに、千代田町近辺にお住まいの14人の方に朝・昼・夕食を781食提供し、10世帯の家の片付けをお手伝いし、17世帯にお米・おむつ・絵本を宅配し、61人のボランティアが見守りや話し相手として活動しました。

また、3月19日～4月18日まで、東北福祉大学正門脇のファミリーマートの隣で「おにぎり2個と味噌汁セット」を648セット販売したほか、3月25日夜には「一息つこう会」を開き、地域の方々と震災の疲れをねぎらい、語らう場となりました。

さらに、「ひなたぼっこ」では、被災支援団体の拠点としてスペースを提供しています。3月12日～21日まで避難所巡回活動を行った「医療ボランティア AMDA（アムダ）」（本部：岡山県）には、千代田町内会の皆さまのご協力を得て3食の食事づくりと、宿泊、避難所への運転などを行いました。

介護・看護職ボランティアの避難所への派遣、物資・車両支援を行う「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」は、3月16日～現在に至るまで、ひなたぼっこに事務局を置いて活動中です。

そのため、ボランティアの派遣・支援物資の移送などにより、「ひなたぼっこ」への人の出入りが非常に多く、荷物の積み込みなどで路上駐車の時間も長いなど、地域の方々にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。

再び地域の方々にふらりと立ち寄って談笑いただける場となれるよう、5月の連休明けより地域食堂（毎週水曜昼）、および居酒屋（毎週金曜夜）を再開しています。ぜひご利用ください。

イラスト
by みゆき

地域ぐるみの子育てを応援する場
「八幡みんなの家」だより

http://www.clc-japan.com/minnanoie/

地震当日、「八幡みんなの家」には6組の親子連れがいましたが、幸いにも被害はなく、来所されていた方々の家も、大きな被害はなかったようです。

3月13日には、三条中学校、国見・八幡・木町小学校へ販売用の駄菓子類の差し入れを行い、三条中学校にはポットの貸し出しも行いました。

3月末に予定していた「いちご狩り」や、4月半ばに予定していた「船岡一目千本桜」の花見などは、中止せざるを得ない状況でした。また、八幡みんなの家を利用する方々は、幼い子連れのママたちが多く、ほとんどの方が震災後に実家へ帰られたため、3月末まで休業させていただきました。

4月に入り再開しましたが、利用料の代わりに「義援金」という形でいただき、青葉区の児童館や認可外保育、宮城野区の避難所数か所に支援物資を届けに行きました。また、多賀城市や雄勝町で被災された利用者や知人の情報を聞き、支援物資を送らせていただきました。

現在も毎日のように続く余震で、来所されるお客さまたちも不安な様子ですが、自宅でポツンといるよりも、八幡みんなの家でママ友と話すことが安心につながっているようです。そこで気分転換にと、4月22日（金）に仙台駅前の和食店「大原」でのランチ会を企画し、楽しい時間を過ごすことができました。

4月から予定していた「外出保育」に関しては当分の間実施を見合わせていただき、代わりに、5月以降から月1回程度、親子対象の簡単な工作や近隣へのお出かけなどの楽しい企画を考えています。同時に、支援物資の配給や受け入れも継続します。

なお、5月以降の「八幡みんなの家」の利用時間は、10時～17時までとさせていただきます。また、利用料として一般の方からは500円をいただき、会員には従来通り会員費をいただいて、その利用料と会員費の一部を義援金として被災地に送りたいと考えています。

第10回
わが町の顔

三条町町内会
会長　勝山 宏さん

三条町内会は、三条中学校を中心に、世帯数90程、単身世帯が140 前後という小規模な町内です。周辺は、寺院と墓地で閑静なところです。

（財）日本国際教育支援協会・仙台第一国際交流会館・宮城県海外研修員会館では35年前から留学生が生活し、国際的な雰囲気のする地域でもあります。町内会にも加入しているので、昨年から交流会に町内会役員が参加しています。

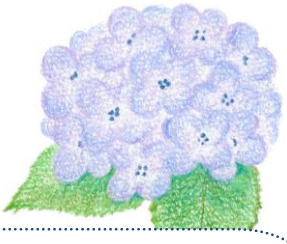
町内会は、10 年程前に会長が病で倒れ、後継者がなく会議で検討した結果、会員の平等方法がよいとの意見と、従来から班長が輪番制だったため、役員も毎年交替で行われました。しかし、連合町内会の諸連絡が十分に町内に反映されなかったため、平成20年度に役員２年の任期に会則を改正し、現在に至っています。

勝山さんは、平成21年４月に会長に就任。ご自身闘病しながら会長として日々頑張っていらっしゃいます。

町内会の役員数は少ないですが、お互いに協力し合って役割を分担し、運営に積極的に参加してもらっています。

今回の東日本大震災では、副会長を中心に、ほかの町内会役員の方々と連携と取りながら、積極的に対策に取り組まれました。支援物資を三条中学校で仕分けし、高齢者世帯に配ったほか、町内全体に水や乾パンを配布。町内会としても、今回の未曽有の大地震は経験のないことであり、支援物資もどこから、どれくらいの量が来るかわからず、対策には苦労されたそうです。この震災を通して、今後は一層、役員一同が町内の親睦を深め、人と人とのふれあいを大切にし、連絡を密に務めるよう気持ちを新たにされているそうです。

また、勝山さんは、日誌を３年間毎日記入して連絡事項の徹底に努めていらっしゃいます。さまざまな工夫をされているので、取材を通し、学ぶことが多くありました。体調に気をつけて、ますますのご活躍をお祈りいたします。



ワンポイント★子育てアドバイス

被災した子どもをもつ保護者の方へ

災害後、お子さんに次のような症状はありませんか？

☆話をしなくなったり、必要以上におびえている。
☆突然人が変わったようになり、現実にないことを言い出す。
☆落ち着きがなくなり、少しの刺激でも過敏に強く反応する。
☆吐き気や腹痛、めまい、息苦しさ、頭痛、頻尿、おねしょ、眠れない、からだの一部が動かない、などの症状を強く訴える。

これらの症状は、非常に強い恐怖の体験を受けて、心が混乱したせいで起こることがあります。これを**「急性ストレス障害」、長期化すれば「心的外傷後ストレス障害」**といいます。

こういう場合には、子どもたちに次のように接してください。

安全・安心を感じること、そしてよく眠れることが大切です

① 家族が集まれたから「もう大丈夫」「ここは安全だよ」「守ってあげるからね」と伝える。
② みんな集まっているから、安心していいことを告げる。
③「心配なことがあったら無理しないで教えてね」と告げる。
④ こういう事件が起こってしまったことは、「あなたのせいではない」「誰も悪くない」「〇〇が出来なくても恥ずかしくないよ」と告げる。
⑤ 自分の身におきた恐怖の体験について、子どもが自分から話し出した時は、無理にやめようとせず、その事実や怖さを聞いてあげてください（※ただし ⓐ軽度の場合で、ⓑ子どもに表現する気持ちがあり、ⓒ被災時の気持ちを共感できる雰囲気や、体験を共有しうる場合に限ります）。
⑥ 痛いところがあったら、さすってあげて下さい。
⑦ お子さんを一人にせず、できればスキンシップを心がけてください。

こういった対応は、少なくとも2～3か月間から半年間、また必要に応じてそれ以降も絶えず繰り返してください。このような大人の態度は、災害時でなくとも子育てには望ましい態度です。

■詳しくは、日本小児科医会のホームページより『子どもの心のケアのため』のリーフレットがダウンロードできます。

EVENT CALENDAR

6月

日	月	火	水	木	金	土
詳細は同じ色の事業所へ 「ひなたぼっこ」 TEL:022-301-8820 「八幡みんなの家」 TEL:022-738-8773		5/31	1	2 ◆ヨガ教室 10:30～11:30 800円(託児別途600円)	3	4
5	6	7	8	9 ◆ワイワイクッキング教室 10:30～12:30 会費1,000円	10	11
12 長者荘子供会資源回収	13	14	15	16 ◆ヨガ教室 10:30～11:30 800円(託児別途600円)	17 ◆八木山ベニーランド＆ランチ 一般1,500円 (会員1, 350円)	18
19	20	21	22	23	24	25 ◆居酒屋 17:00～20:00
			29	30	7/1	7/2

6.19❤父の日

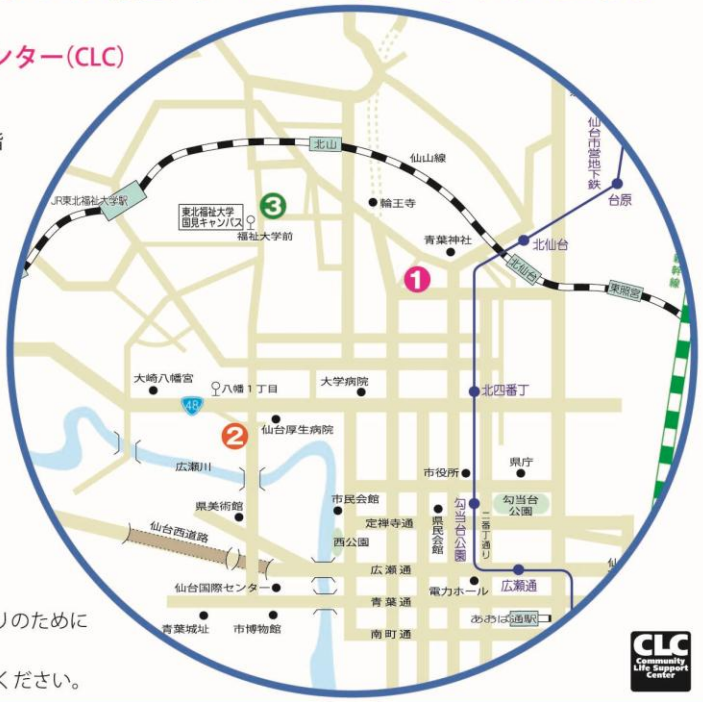
内容が変更される場合もありますので事前にご確認ください。上記のほかにもイベントを企画しています。

ご近所マップ　あなたの地域のお役立ちマップをつくりませんか…

❶ 全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
(マッサージ『トリプルリッチ』)
〒981-0932
仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町ビル１階
TEL：022-727-8730　FAX：022-727-8737
http://www.clc-japan.com

❷ だがし＆休み処『八幡みんなの家』
〒980-0871
仙台市青葉区八幡１丁目２－７
TEL：022-738-8773　FAX：022-738-8775
http://www.clc-japan.com/minnanoie/

❸ 国見・千代田のより処『ひなたぼっこ』
〒981-0936
仙台市青葉区千代田町 1-13
TEL.022-301-8820　FAX.022-301-8821
http://www.clc-japan.com/hinatabokko/



「誰もが地域で普通に暮らし続けるために…」
こんな場所があるよ。あんな場所があるよ。を
みんなで作成したいと思います。住み良いまちづくりのために
ぜひ皆さんの手でマップをつくってみませんか。
右の地図に書き込んで、FAX またはメールにて送信ください。

印刷：萩の郷福祉工場
「みんなのわ」は、仙台市委託「企画提案型コミュニティビジネス運営事業（ふるさと雇用再生特別基金事業）」の費用で作成しています。